

学習ポイント 1

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

文の意味に合う漢字を選び、字の形と送り仮名まで正確に書きます。小学校の漢字の活用を土台に、中学校の学習と高校受験に向けた語彙へ広がります。

目標 文脈に合う漢字を選ぶ／送り仮名を含む語全体を書く／似た形の漢字を区別する

1 読みだけでなく意味で選ぶ

同じ読みの言葉でも、意味が違えば使う漢字も変わります。前後の名詞や動詞を手がかりに、何を表す言葉かを言い換えてから書きましょう。

例1 「作家のサイン」は「署名」。「書名」は本の名前。

例2 「旅費を一円単位まで計算して精算する」の「精算」は、細かく計算すること。

例3 「漢字をへんかんする」は「変換」。「返還」は返すこと。

2 送り仮名を含めて覚える

書き取りでは、指示されたカタカナ全体を漢字と必要なひらがなに直します。漢字一字だけで終わらせず、活用する部分まで含めて答えます。

例1 「ナガレル」なら「流れる」。「流」だけでは不足。

例2 「ウツクシイ」なら「美しい」。「美い」にしない。

例3 「タシカメル」なら「確かめる」。漢字と送り仮名を組にする。

学習ポイント 2

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

3 形の似た字は部分で比べる

似ている字は、線の位置・長さ・本数や部品の違いに注目します。手書きでは、別の字に見えない形で書くことが大切です。印刷の字体を細部まで機械的に写す必要はありません。

例1 「未」と「末」は、上下の横画の長さを比べる。

例2 「士」と「土」は、上下の横画の長さを比べる。

例3 「持」の左側は「てへん」、「待」の左側は「ぎょうにんべん」。部首を見分ける。

4 熟語を二つの意味に分ける

熟語を構成する漢字の意味を確かめると、誤字や取り違えを減らせます。部首の意味だけで決めつけず、その熟語全体の意味も確認します。

例1 「増減」は、増えることと減ること。

例2 「再建」は、建物などをもう一度つくること。

例3 「防水」は、水が入るのを防ぐこと。

学習ポイント 3

小学校～中学校の総復習／高校受験対策

5 問いの範囲と字数を確認する

下線部だけを直す問題で、文全体を書き写す必要はありません。マスは書きやすさのための余白も含みます。字数指定がない問題は、マスを全部埋めなくても構いません。

例1 「考えをセイリする」では「整理」と書く。

例2 下線部が「フカメル」なら、送り仮名も含め「深める」と書く。

例3 一字一マスを基本にし、不要なマスは空けておく。

6 間違いの原因に合わせて直す

間違えた語を、意味の混同・字形の混同・送り仮名の誤りに分けます。正しい形を確認したら、答えを隠して、別の短い文の中で書いてみましょう。

例1 意味の混同なら、二つの語の意味を並べて比較する。

例2 字形の混同なら、違う部分に注目して一度丁寧に書く。

例3 送り仮名の誤りなら、語全体を声に出して書き直す。

使い方と参考資料

本教材の対象と採点について

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順で取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

読み・語彙は小学校～中学校の既習事項を広く復習し、書き取りには高校受験対策の語も含めます。「中3」は利用の目安であり、各語が全国共通の中3新出漢字という意味ではありません。

書く欄は1マス9mm、罫線は1行10mmです。字数指定がない場合、余ったマスは空けて構いません。字数指定のあるマス目では、句読点も1マスに1字ずつ書きなさい。

本教材では、学校での学習を想定した標準的な読み・表記を練習します。辞書にある別読・異表記をすべて許容解とするものではありません。送り仮名の許容形や記述の言い換えは、解答解説の基準に従います。手書きの字形は、同じ漢字と判断できるかを確認してください。

設問・例文は、本教材のために作成したオリジナルです。出題頻度の統計や特定地域の入試傾向を示す教材ではありません。参考資料の例文・設問は転載していません。共通する語句は、別の文脈や出題形式で繰り返し確認する総復習として配置しています。

1 文部科学省 中学校学習指導要領 平成29年告示 国語

第3学年の漢字の読み・書き、語彙指導の範囲を確認。

2 文化庁 送り仮名の付け方

送り仮名の本則・例外・許容の扱いを確認。

3 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア 言葉について

表内音訓、送り仮名、語義の表記方針を確認。

4 漢字ペディア 摸

辞書上の異表記を確認。本教材の書き取りでは、常用漢字による「模索」を練習する。

5 漢字ペディア 顧みると省みる

過去を振り返る意味と、自分の行いを反省する意味の区別。

参考資料 続き

語義と学習範囲の確認

6 文化庁 送り仮名の付け方 通則1

断る／断わるの許容表記を確認。

資料確認日 2026年10月8日。資料名を選ぶと参照ページが開きます。